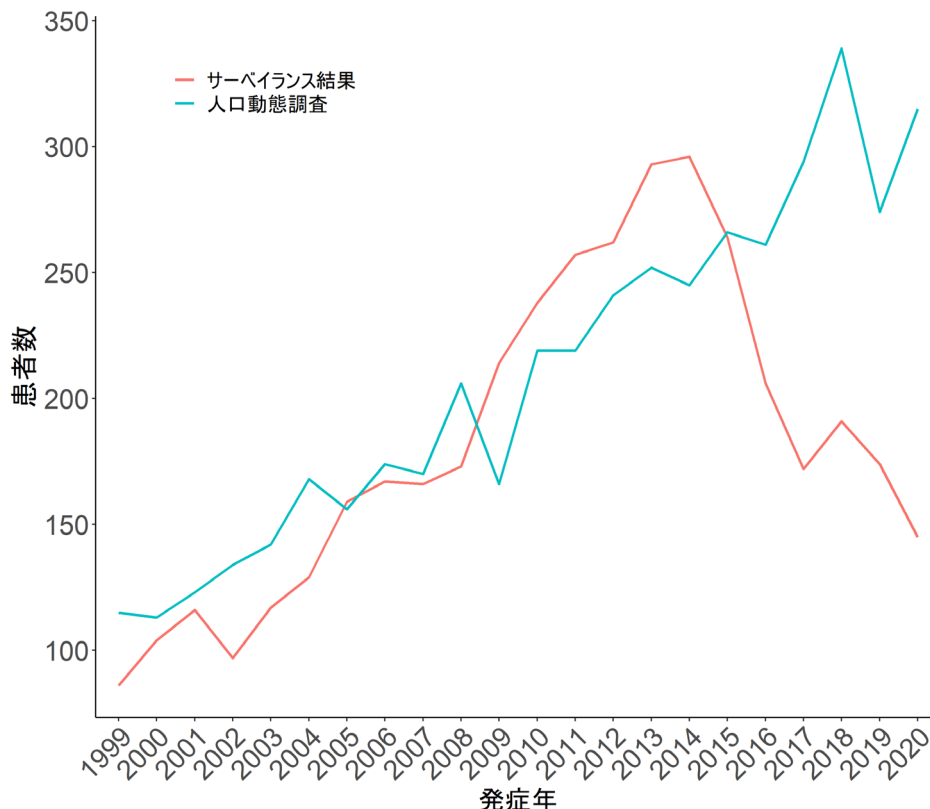


全国サーベイランスに基づくわが国の プリオン病の疫学像(1999年～2021年)

研究分担者: 自治医科大学地域医療学センター公衆衛生学部門 阿江竜介

1. サーベイランス登録患者数と人口動態調査によるプリオン病の死亡者数の年次推移



2. 主な病型の性別と発症年齢の分布 (発症年次が1999年以降の症例を集計)

	全体 N = 4,144 ¹	sCJD N = 3,167 ¹	gCJD N = 726 ¹	GSS N = 158 ¹	dCJD N = 93 ¹
性別					
男	1,777 (43)	1,370 (43)	289 (40)	78 (49)	40 (43)
女	2,367 (57)	1,797 (57)	437 (60)	80 (51)	53 (57)
年齢	71 (63, 77)	71 (64, 77)	75 (67, 81)	56 (48, 61)	61 (49, 69)

CJD: クロイツフェルト・ヤコブ病, sCJD: 孤発性CJD, gCJD: 遺伝性CJD, GSS: ゲルストマン・ストロイスラー・シャインカー病, dCJD: 硬膜移植歴を有するCJD.

¹値は性別については頻度(%)、年齢については中央値(四分位範囲)である。

解 説

全国サーベイランスによるプリオン病の発症者数は増加傾向にある。登録までに数年を要するため、2014年以降は減少しているように見えるが、将来的には人口動態調査による死亡数に近づいていくと予想される。病型ごとの集計ではsCJD, gCJD, GSS, dCJDの順に患者数が多く、GSS以外の病型では女性の占める割合が大きい。